

令和 2 年 9 月 9 日現在

機関番号：33801

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04321

研究課題名（和文）保育職の再就職に関する阻害要因とキャリア再形成支援に関する研究

研究課題名（英文）The reemployment in EY workers; the comparison study between Japan and England.

研究代表者

山本 睦（夏堀睦）（Yamamoto, Chika）

常葉大学・保育学部・教授

研究者番号：60434536

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では再就職への動機づけ、必要な支援、障害の視点から、他業種再就職者や保育者資格の高次化に取り組んでいる英国と比較することを通じて、日本の保育者の再就職の特徴を検討した。インタビュー調査を実施した再就職経験者・志望者は、最終的に日本保育者13、他業種5、英国保育者19、保育再就職志望者15、潜在保育者3、他業種6の計61名であった。各回答中の単語の共生起関係に着目したテキストマイニングにより分析した結果、日本の保育者の再就職の特徴は、1)自分の「子ども」が優先、2)他者志向、3)非正規雇用による低い専門性、4)家庭内支援が重要、5)就業制度・体制に関わる障害や葛藤であることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の結果から、保育現場での再就職確保のための3つの施策が提言できる。1)再就職者自身の「子ども」に対して、優先的に保育を保障する。障害は「家庭との両立」ではなく、子どもの面倒を見る存在の欠如にある。2)時間的な障害を克服する雇用形態を考える。「パートタイムであっても正規職員」という雇用形態を創出し、昇進可能性を保障する。同じような時短勤務を希望する保育者を組み合わせたクラス運営を行う。3)資格制度をより階層化し、担当できる業務と処遇のバランスを取る。同一労働・同一賃金の徹底。より高度な資格取得のための機会と場を設定し、そこに再就職志望者が集まっている人材バンクとして機能可能にする。

研究成果の概要（英文）：This research made clear the promotion and inhibition factors for the re-employment of Japanese EY (Early Years) workers in 3 viewpoints follows; Motivation, Supports, and Obstacles, through compared with England EY workers, applicants, or other occupation workers. The number of interview participants was 61, who were 13 Japanese EY returners, 5 Japanese other occupation returners, 19 English EY workers, 15 English EY applicants, 3 English former EY workers, and 6 English other occupation returners.

The analysis method adopted text mining in terms of co-occurrence between words and drawn the Category-web in each group. Through the comparison between groups, Japanese EY returners showed 5 tendencies below; 1) Their priority was their own children, 2) Other-oriented tendency, 3) Low expertise, 4) Any supports in Family is the most important, 5) Discontent with their employment system.

研究分野：教育心理学、キャリア教育

キーワード：再就職 保育者 異文化間比較 テキストマイニング キャリア発達 資格制度 就業形態

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2015 年度から 2017 年度までの 3 年間に渡り、6.9 万人の「保育士確保プラン」(厚労省, 2015) が発表され、様々な施策が国や地方自治体によって試みられてきたが、依然保育士不足は解消されていない。特に現場で即戦力となることが期待される「潜在保育士」(有資格であるが、現状保育の仕事をしていない人) 0.9 万人の掘り起こしを目的に、再就職志望者と求人している施設をつなぐマッチング事業は多くの市町で試みられているが、筆者が地域連携事業を実施していた政令市ではわずか 20 件程度の求職登録者しか得られない結果となった。こうした実態から保育者不足解消に焦点を当て、その特異性を明らかにすることで有効な手立てとなるような研究が必要となった。しかし、多くは保育者養成校に所属する研究者による卒業生の追跡調査から「就業継続」か「退職」かが確かめられる程度で、およそその潜在保育士の数と有資格者における比率の推測に有効であるかも疑わしいと考えられる結果となっていた。その根拠として、国も地方自治体も正確な潜在保育士数が公表できていないことが挙げられる。新卒で就職した園との連携で、「退職」までは追跡できて、それ以降「再就職」までのキャリアは養成校からのアプローチでは困難と言わざるを得ない。

潜在保育士の職場復帰策がうまく機能しないその一方で、日本は 2015 年度より保育者不足の深刻化に伴い、短期研修のみで現場に入る「子育て支援員」という無資格者による保育を認める(厚労省, 雇児発 0521 第 18 号)こととなった。この施策では、2016 年度の実施者数は 47,000 人(厚労省, 2017)と報告されているが、支援員の配置想定先は、小規模託児事業や放課後児童クラブ、子育て支援事業、社会的養護施設である。無資格者による保育を認める一方で、深刻な不足状況にある園への支援とはならない。このような状況の打開策として、再就職者の増加とその後の就業継続に効果的な支援策を考察することを目的として、心理学的なアプローチを行ったのが本研究である。

一方、英国では 2014 年以降、Early Years(就学前; 以下 EY)を対象とした教育の質向上への提言(Nutbrown, 2011, 2012, 2013)を基礎として、英国の Ofsted(教育監査局)は保育の有資格者を NVQ(National Vocational Qualification: 全国職業資格)でいうところのレベル 6(四年制大学卒レベル; 埋橋, 2015)以上の保有者とし、保育職に携わる人材に対し資格の高次化を図った。現場は大学における養成課程受講に伴う補助が打ち切られたため、園にとってレベル 6 以上の人材確保に難を残しているが、有資格者の視点では明らかに出産後の再就職や就業継続が容易になっている。

このように有資格者の高度化と無資格者の保育を認めるという真逆の政策を採っている英国と日本において、保育あるいは他業種の再就職経験者、また英国では保育の仕事への再就職志望者を対象に、再就職に至る過程や支援の必要性に関してインタビュー調査を行った。

2. 研究の目的

資格制度と就業慣行の相違を踏まえて、本研究は日本と英国を比較、さらに保育職と他業種の再就職経験者とを比較し、再就職に至る経緯(動機づけと障害)や働き続けるための支援内容とリソースを検討した。その分析を通じて、日本の保育者の再就職に必要な制度や就業慣行の変更に關する提言を行った。

3. 研究の方法

保育者対象の国内調査は 2016 年 12 月から 2017 年 1 月末に 10 日間、他業種の国内調査は 2016 年 12 月に 3 日間で実施した。英国調査は保育者対象に 2016 年 6-7 月、2017 年 2-3 月、2018 年 1-2 月、他業種対象では 2017 年 9 月の 4 回の渡英中計 18 日間(コーディネーターとの会議や施設見学、大学での講義を除く)で実施した。個別にインタビュー調査を実施した再就職経験者・志望者は、最終的に日本保育者 13、他業種 5、英国保育者 19、保育再就職志望者 15、潜在保育者 3、他業種 6 の計 61 名であった。

保育者は園内の個室で調査者と 1 対 1 でインタビューを実施した。国内他業種再就職者は大学の研究室で、英国他業種再就職者はコーディネーター宅で調査者と 1 対 1 でインタビューを実施した。インタビューの事前に、調査概要の説明と調査協力と録音の合意を得て、IC レコーダに録音した。得られた音声データは、業者に委託してテープ起こしを行った。英語の回答の翻訳は調査者が実施し、英国コーディネーターに意味や文脈が曖昧な箇所は確認してもらいながら実施した。

主な質問項目は次の 5 点であった。

- ・なぜ再就職をするという意思決定に至ったか
- ・あなたが再就職を決めたモチベーションとは? [What was your motivation to return or come back working?]
- ・再就職に関してあなたが考える最も必要な支援とは? [How do you think now what is the most important support for your return or to continue to work?]
- ・再就職にあたって、何が障害となった(となる)か [What was(would be) the barrier of your return?]
- ・再就職を決める際の優先事項 [On the return to work, what would you give priority to?]

再就職の動機づけ、必要な支援、障害各回答部分中の単語の共生起関係に着目したテキストマ

イニングにより、グループごとに感性分析によるカテゴリーweb を作成し、比較分析を行った。またテキストマイニングによって抽出されたカテゴリーが含まれる文章をさらに「ネガティブ / ポジティブ」のように下位コーディングする際（下位カテゴリーの再設定）には、3名で評定を行い一致率は96.7%であり、不一致であった3切片については話し合い、評定者間で合意形成を行なった。

4. 研究成果

1. 再就職への動機づけに関する比較分析結果

抽出された特徴は次の4点である。

- 1) 保育者と同様他業種においても、日本の再就職者は回答者自身の「子ども」の状況が再就職を決める際の動機づけに影響する。
- 2) 英国の再就職者では自分の再就職に対する価値づけが、積極的と消極的どちらも表れるが、日本の再就職者は積極的に価値づけられている。経済的というより、自分にとって社会との接点の回復という意義が大きい。
- 3) 同じく、日本の再就職者は友人からの誘いや友人そのものが欲しくて、再就職を決定していた。再就職の意思決定には、他者への志向が影響している。
- 4) 「子ども」と「理由」のカテゴリに着目すると、日本の再就職者は「子どもの手が掛からなくなる」と「理由」が動機となり、英国の再就職者は「子どもの周りで働けること」が動機となっている。ここから、日本では再就職が子どもの養育から本人の社会との接点の回復という心理的要因が大きく、英国の再就職では働くことが前提であり少しでも子どもの都合に合わせて働ける場所を求めるといった経済的要因が大きいと推測された。

保育者不足解消のために動機づけの分析から提案できることは、次の3点に集約できる。

- 1) 保育再就職者には、まず自分の子どもの保育を保障する。
- 2) 保育の資格システムの改変によって、適切な専門性の向上を図る。
- 3) パートタイムでも昇進が可能であるような雇用慣行に改変する。

2. 再就職における「支援」に関する比較分析結果

日本の再就職保育者は、1節の再就職動機づけの分析結果と同様、「子ども」や「家族」と働く「私」の結びつきが強く示された。つまり、家庭内での支援が重視されていた。さらに「子ども（子）」を回答に含めた10名全員が「保育者自身の子ども」を意味していた。この結果から、職場復帰時にしろ、再就職後の継続にしろ、日本の再就職保育者は「自分の子どもに対する支援」、つまり保育保障が重要であり、家族内で子どもの「面倒を見る」支援者の調整が支援のポイントとなることが推測される。また給料よりも「早番遅番」や「休み」といった時間的要素の共起が多いことから、勤務条件面での支援を考える際には労働時間の視点が重要であると推測される。

英国の有資格保育者の特徴は、「サポート」が「仕事」と強く共起していることであった。また、「家族」よりも「園内職員・同僚」との強い共起が示された。「子ども」の回答は3名中3名「保育者の子ども」を指していたが、それは「自分の子どもを職場に預けることができる」といった、出産が退職理由であった保育者の職場復帰に関わる制度についての説明であった。

日本の保育者と英国の有資格保育者は「子ども」の内容が保育者自身の「子ども」を指していたことは同じ傾向であったが、前者は調査参加者の各家庭の事情が個別に語られるのに対し、後者は制度としての再就職支援である「我が子を自分が働く施設に入園させることが再就職と同時に実施される」ことに言及したものであり、実際に回答者の子ども以外についての語りが見られた。

また労働時間に関しても、英国では就業時間のフレキシビリティが高いことが分かった。一方、日本では「早番遅番」の分担制や「休み」の少なさが「支援が必要な対象」となっていたので、今後時間的な就業慣行の見直しを検討することで再就職をしようという意思決定を促進する効果が期待できると考えられる。

3. 再就職における「障害」に関する比較分析結果

この分析では、日英の比較だけでなく、役割や立場による相違も反映させたかったので、英国の管理職と潜在保育者のインタビュー結果も分析対象とした。日本の保育者の再就職経験者はすべて非正規雇用であったので、管理職がいない。それに対し、英国では管理職自身が再就職経験者でありパートタイムであるケースが多かった。そこで英国の回答者カテゴリーを細分化することで、立場が異なることによる「障害・葛藤」の捉え方の特徴を検討した。

各群の回答の特徴は、次のようになった。

・日本：現役保育者（再就職経験者）

正規職員への不満、公立園独自の職務慣行（早番・遅番、年度単位の配置）、人間関係トラブル、就業制度・体制に関わる障害・葛藤

・英国：再就職志望者

資格による格差、弊害、資格と処遇の乖離

資格制度に関わる障害・葛藤

・英国：管理職

資格と処遇の乖離，制度変更に伴う有資格者の確保

保育者と園のマネジメントに関わる障害や葛藤

・英国：現役保育者（再就職経験者）

資格に関する回答が少ない，保育の仕事内容が「子どもといること」から「書類作成」へと移行

書類作成が障害

さらに、この分析にあたって英国で2名の潜在保育者にもインタビューができたので、同様に分析したところ、次のように特徴が抽出された。

・潜在保育者

現行の保育現場に受け入れられない，低賃金，観察－書類作成ができない

書類作成が障害

保育者の不足状況は共通であるが，日本と英国では次の点が大きく異なっている。日本が全般的に雇用契約上の問題が障害となっているのに対し，英国は有している資格水準が高い群（再就職志望者・管理職）が保育者独自の「資格と処遇の乖離」を障害としており，また資格水準が低い群（現役保育者・潜在保育者）では保育の仕事の専門性の高次化に伴う障害が語られた。日本では非正規職員である保育職の労働時間の長さや，昇進可能性が正規職員のみ限定されていること，年度ごとの契約といった就業契約の在り方を改善することで，キャリア形成の多様な道筋を作ることが必要となると考えられる。特に，「パートタイム雇用でありながら正規職員」という働き方は早急に検討されるべき課題であろう。その施策によって，労働時間の長さによる弊害は抑制される可能性がある。

4. 総括；日本の保育者の再就職促進のための提言

日本の保育者の再就職の特徴は、1)自分の「子ども」が優先、2)他者志向、3)非正規雇用による低い専門性、4)家庭内支援が重要、5)就業制度・体制に関わる障害や葛藤であることが示された。

この結果から、次の3点が日本の保育職における再就職者確保のための提言として導き出された。

1)再就職者自身の「子ども」に対して，優先的に保育を保障する。

2)時間的な障害を克服する雇用形態（パートタイムでも正規雇用とする雇用形態）を考える。

3)資格制度をより階層化し，担当できる業務と処遇のバランスを取る。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Chika Yamamoto	4. 巻 46
2. 論文標題 Motivation for and Priority of Work in the Re-employment of EY workers: A Comparative Study between Japan and England.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 応用心理学研究 ICAP英語論文特集号	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） -	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本睦	4. 巻 6
2. 論文標題 システム論による保育者のキャリア発達分析の可能性：The System Theory Frameworkの展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 常葉大学保育学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本睦	4. 巻 5
2. 論文標題 保育施設の管理職に求められるマネジメント力の日英比較	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 常葉大学保育学部紀要	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 2188-3645	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本 睦	4. 巻 4
2. 論文標題 イギリスの保育者資格制度改革後の現状と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 常葉大学保育学部紀要	6. 最初と最後の頁 49-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1．発表者名 山本 睦
2．発表標題 保育者の就業継続に必要とされる支援； 日英比較研究を通じて
3．学会等名 日本応用心理学会第86回大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 Chika Yamamoto
2．発表標題 The Motivation for and Priority of Work in EY worker 's Re-employment: A Comparative Study between Japan and England.
3．学会等名 The29th International Congress of Applied Psychology [ICAP 2018] (国際学会)
4．発表年 2018年

1．発表者名 山本睦
2．発表標題 潜在保育者の効力感とレジリエンス，必要とする支援の特徴：卒業後8,7,6,5年目の4年制養成校卒業生を対象とした調査から．
3．学会等名 日本応用心理学会
4．発表年 2018年

1．発表者名 山本睦
2．発表標題 自主シンポジウム：保育者の離職および再就職における経験のプロセス 話題提供：保育職の再就職促進要因の日英比較
3．学会等名 日本保育学会
4．発表年 2017年

1．発表者名 山本睦
2．発表標題 保育者の再就職における意思決定過程の分析：他業種との比較を通じて
3．学会等名 日本応用心理学会
4．発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----